

















- 1. 海鼠釉筒 小代 19世紀 高11.5cm
- 2. 白薩摩土瓶 19世紀 高20.0cm
- 3. 色絵丸文壺 伊万里·古九谷様式 17世紀 高11.0cm
- 4. 色絵鳳凰文壺 伊万里・古九谷様式 17世紀 高23.0cm

至 東北沢駅		
東大先端科 研究セン 東京大学駅	ター 日本近代 文学館	
リサーチキャ	リンパス 駒場公園 日本民藝館・本館	
至池/上駅	京王井の頭線	ト 東京大学駒場 I キャンパス
<b></b>	駒場野公園	駒場東大前

- 7. 黒釉黄流皿 小鹿田 19世紀 径49.0cm
- 8. 鉄釉貼付文甕棺 多々良 18世紀 高70.9cm
- 9. 緑釉指描文鉢 唐津(武雄) 17世紀 径50.0cm

開館時間:午前10時-午後5時(入館は16時30分まで)

休 館 日:月曜日 (ただし5月5日は開館し、5月7日振替休館)

入 館 料:一般 1,100 円 大高生 600 円 中小生 200 円

交 通:京王井の頭線駒場東大前駅西口から徒歩7分

所 在 地:〒153-0041 東京都目黒区駒場 4丁目 3番 33号

電話番号:03-3467-4527

西館公開日(旧柳宗悦邸): 会期中の第2水曜、第2土曜、第3水曜、第3土曜日(入館16:00 迄)

http://www.mingeikan.or.jp/ 日本民藝館





# 月8日(日

日本民藝館

http://www.mingeikan.or.jp/





まうがんこよみであたつきつぼ 象嵌暦手蓋付壺 八代 18世紀 高54.0cm



工作 18世紀 径30.4cm



白磁燭台 平佐 19世紀 高34.7cm

# 九州の陶磁展

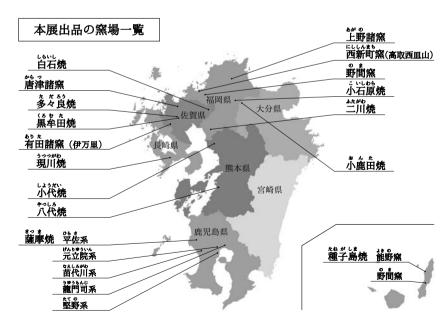
近世に入り、九州の陶磁器は朝鮮陶磁の影響を受けながら、多様な技法を用いて特色ある焼物が各地で生み出されました。中でも知られているのは、白色の器体に染付や色絵による文様が施された伊万里や、おおらかな絵付の絵唐津などでしょう。

伊万里は、佐賀県有田町を中心に焼かれた焼物で、1610年代に磁器焼成が始まり、伊万里港から全国に出荷されたため、消費地では伊万里焼と呼ばれました。16世紀に始まった唐津は、佐賀県西部と長崎県北部にわたる広範囲の諸窯で焼かれた陶器で、作風により絵唐津のほか、朝鮮唐津、三島唐津などと呼ばれますが、当館では二彩唐津を多く有しています。

日本民藝館ではこれらに加えて、大胆な流し掛けに特徴がある小代焼、 「たまっま」 日用雑器として生産された黒薩摩を中心とする薩摩焼、素朴で雄勁な種子 島焼などの九州の近世陶器が所蔵されています。これらの多くは、当館創 設者・柳宗悦(1889-1961)により蒐集されたものであり、生活の中で用いられた陶磁器が豊富に含まれていることがその特色に挙げられましょう。

また、大正末期に始まる民藝運動においては、20世紀まで九州民窯の伝統が保たれた産地として、多くの窯場に目が向けられました。飛鉋や刷毛ので装飾された小鹿田、古薩摩の系譜を引く苗代川や龍門司、高取の西新町などが、昭和初期に民藝運動で見い出され、高く評価されています。そのほか、小石原や白石、多々良など、さまざまな窯が紹介されました。

本展では、近世前期から近代までの館蔵の九州陶磁を、一堂に展観致します。暮しを彩った色鮮やかな焼物や、力強い質実剛健な陶磁器の数々をご高覧下さい。



記念講演会 柳宗悦が選んだ日本のやきもの 一九州の陶磁を中心に

(講師) 梶山博史(兵庫陶芸美術館学芸員) 5月31日(出) 18:00-19:30 会場・日本民藝館大展示室 料金・300円(入館料別) 定員・100名 (要予約)

## 展示室 1 階

# 〔玄関〕九州の陶磁展

### 〔第1室〕瀬戸と美濃の陶器

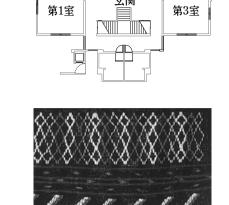
日本を代表する窯業地、瀬戸と美濃。両窯の大きな特質をその絵付けにみることができます。ここでは動植物等の具象文や変化に富む幾何学文を、 簡潔で単純な模様にまで煮詰め活き活きと描きました。江戸期に瀬戸・美 濃で生まれた絵付けの陶器を中心に展観します。

### 〔第2室〕中国の陶器

当館の中国陶器は漢代の明器をはじめ、宋・明・清時代のものが多数所蔵されています。さらに 20世紀に作られた陶器も、1960 年代後半に中国南部より集中的に蒐集され、所蔵品の一翼を担ってきました。漢代から 20世紀にいたる中国陶器の優品をご覧ください。

### 〔第3室〕沖縄の木綿織物

沖縄の織物といえば、芭蕉や苧麻のような透き通った素材をまず思い浮かべますが、木綿も多く織られました。首里の紺地絣や花織をはじめ、読谷山の花織衣装や踊り着、八重山の白地絣やミンサーなど、沖縄各地の木綿衣装を中心に展示します。



売店

第2室

[1**階第3室**] 木綿花織絣踊り着(部分) 読谷 19世紀

### 展示室 2 階

### [大展示室] 九州の陶磁展

### 〔第1室〕朝鮮の陶磁器

当館が所蔵する朝鮮半島の焼物は、朝鮮時代(15世紀-19世紀後半)のものが主体となっています。磁器では白磁・染付・鉄砂等があり、陶器では刷毛目・象嵌・鉄絵等の手法が見られます。九州の陶磁と濃い血縁で結ばれている朝鮮陶磁器の優品を紹介します。

# 〔第2室〕朝鮮時代の諸工芸

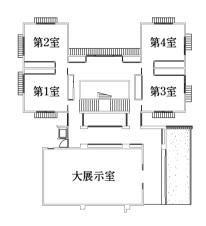
主として19世紀後半から20世紀初期にかけて作られた、朝鮮半島の人々の生活を彩った木工品や金工品、石工品の数々を展示します。材料の性質を活かしたおおらかな形や、素朴な模様表現がそれらの特徴といえましょう。柔和な表情を宿した、民族固有の造形美をご覧ください。

# [第3室] 大津絵

日本民画を代表する「大津絵」。大津絵は、江戸時代の庶民の楽しみや、彼らの信心に応える絵画として、大津の追分あたりで街道の土産絵として売られていました。同じ画題が繰り返し描かれたために図像は略筆され、かえって生き生きとした魅力を生み出すこととなりました。

# 〔第4室〕人形と玩具

民間の雛人形として江戸後期から幕末にかけて作られた、三春人形(福島県・三春)、鴻巣人形(埼玉県・鴻巣)などの古人形。素朴ながらも躍動的で感情細やかな、日本の古人形の魅力をご堪能ください。なお、羽子板や独楽、カルタなどの民間の玩具類も併せて展示します。





[2 **階第3室**] 大津絵 鬼の行水(部分) 17 世紀後半~18 世紀前半